

大賞

大内小学校 6年 山本 龍輝

表題「鉄は魔法つかい」

書籍名『鉄は魔法つかい』

この本の筆者は、カキ、ホタテの養殖よく業をしています。そして、漁師をしている仲間達と山に木を植える活動をしています。

漁師が山に木を植えるのはどうしてか、鉄はどこで関係してくるのかと、ぼくはとてもぎもんに思いました。本を読み進めると、森には魔法つかいがあると分かりました。海にいる魚や貝たちは、植物性プランクトンや動物性プランクトンを食べて成長します。そのプランクトンを山が作り出すことを知りました。

山に多くの木があることで、植物は光合成をし、炭水化物と酸素を作ります。そして、光合成は葉緑素を作ります。森林では、毎年、木の葉が散りかさなり、くさつてふよう土になります。そのときにできた栄養素とふよ

う土の下の地中の鉄がとけた地下水が川に流れて、海に行き、質のよいプランクトンを作ります。魔法つかいの正体は、ここで重要な役割をしている鉄なのです。

ダム建設で森林ばっさいをしたり、手入れのされていない山、農薬や化学肥料の使いすぎで、大事なプランクトンが作られず魚が減っていきました。そこで、漁師たちが山に木を植える活動を始めました。山に木を植えたことで、とてもおいしいカキやホタテができ、三十年近くすがたを消していたウナギもすがたを見せるようになりました。

ぼくは、海でよく釣りをします。今までは「今日は魚がいないなあ。」とか「今日は大きな魚が釣れた。」とか、目の前の海のことしか考えていませんでした。この本を読んだことで、たくさんさんの栄養素を作る山やそれを海に運ぶ川のことも考えるようになりました。

ぼくの家は、山に囲まれていて自然が豊かです。その自然を守るために、山を荒らすことをせず、きちんと手入れをして大事な栄養素を作る手助けがしたいです。